

平成 18 年度大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会

第 2 回利用対策部会

議事概要

◆日 時 平成 19 年 2 月 21 日 (水) 13:30~16:00

◆場 所 奈良県文化会館 集会室 A・B

◆出席者

<委員等>

田村 義彦	大台ヶ原・大峰の自然を守る会 会長
長嶋 俊介	鹿児島大学多島圏研究センター 教授
西田 正憲	奈良県立大学 教授
日比 伸子	橿原市昆虫館 学芸員
榎村 久子	京都女子大学 教授
佐久間 大輔	大阪市立自然史博物館 学芸員

<関係機関>

近畿運輸局奈良運輸支局	葛城 滉男	主席運輸企画専門官
	北寺 康人	運輸企画専門官
近畿中国森林管理局三重森林管理署	(ご欠席)	
奈良県企画部観光交流局観光課	(ご欠席)	
奈良県農林部森林保全課	白井 実	係長
三重県環境森林部自然環境室	(ご欠席)	
上北山村地域振興課	中崎 和徳	課長
川上村産業振興課	横谷 好則	主幹
大台町宮川総合支所産業室	寺添 幸男	室長
上北山村商工会	(ご欠席)	
近畿日本鉄道(株)運輸部営業課	速水 悅美	
奈良交通(株)吉野営業所	松尾 茂	所長
奈良県タクシー協会	岩橋 宣禎	専務理事
吉野熊野観光開発(株)	小梶 昌司	総務課長

(以上敬称略)

<事務局>

環境省近畿地方環境事務所	田邊 仁	統括自然保護企画官
	柴田 泰邦	国立公園・保全整備課長
	石川 拓哉	自然保護官
	福原 裕	自然保護官
同 吉野自然保護官事務所	羽井佐 幸宏	自然保護官
(株) スペースビジョン研究所	宮前 洋一	代表取締役

◆議事

- (1) 平成18年度「新しい利用のあり方推進」実施報告（案）について
- (2) 平成19年度「新しい利用のあり方推進」実施計画（案）について
- (3) その他

◆議事概要

○委員及び関係機関からの主な意見等

(マイカー規制の実施～パーク＆シャトルバスライド～)

- ・ 今後も継続して、関係行政機関による会議や地域懇談会などを開催し、着実にマイカー規制の実施に向けた検討・合意形成を進める必要がある。
 - ・ 公共交通に関する要望として、バスの増便と料金引き下げが挙げられているが、その可能性についてお聞きしたい。
⇒ [関係機関] 大和上市から大台ヶ原へのバスは、所要時間が片道1時間40分程と非常に長く、ピストン輸送ができないため、増便は難しい。また、料金の引き下げについても、現状の利用者数からすれば難しい。今後は、関係機関とタイアップするなど、何らかの方法で割引乗車券等について検討したいと考えている。
 - ・ 大台ヶ原の公共交通利用者は、年々減少している。利用形態として、大台ヶ原の他に山麓の温泉に立ち寄るなど、マイカー利用が定着している感がある。
 - ・ 公共交通利用促進の広報活動については、街の中での積極的な情報提供・発信が必要である。特に、広報活動と連携した自然体験プログラムの内容については、積極的に広報すべきである。また、企画段階から自然系博物館と連携するなどし、より魅力的な内容を検討すべきである。
 - ・ パーク＆シャトルバスライド社会実験の詳細な計画については、関係行政機関のみでなく、関係交通機関も加えた会議等で検討すべきである。
 - ・ 社会実験の乗換え交通については、シャトルバスのみでなく、タクシーを加えるなど、きめ細かな交通サービスの提供について検討する必要がある。
 - ・ パーク＆シャトルバスライド社会実験の乗換え駐車場について、現時点での候補地の状況をお聞きしたい。
- ⇒ [事務局] 山麓において、新たな整備をせずに利用可能な場所を想定している。今後、上北山村及び川上村と十分調整したうえで、乗換え駐車場の候補地を含め、具体的な実施方法等について検討していきたい。またその内容については、平成19年度の第1回目の利用対策部会や関係機関による自動車交通対策会議、地域説明会等で報告させて頂きたい。

(より良好な森林地域の保全の強化～利用調整地区の設定～)

- ・ 西大台地区における利用者のアンケート結果は非常に重要である。今後も、利用調整地区の運用による利用者意識の変化等を把握するため、継続的なアンケート調査を実施すべきである。
 - ・ 西大台利用調整地区の運用開始が平成19年9月1日になることで、平成19年度分のモニタリング調査の項目によっては、運用開始前と開始後の両方の結果が得られることになる。毎年実施しない調査については、その結果の位置づけの整理が必要である。
- ⇒ [事務局] 每年実施しないモニタリング調査としては、植生調査や動物調査等が該当するが、いずれも開始直前と直後で極端な変化が現れる項目ではないとした上、平成19年度の調査結果を初期値として位置づけ、3～5年後の調査結果を踏まえて、効果の確認をしていきたいと考えている。

- ・ 団体ツアーチの調査結果について、ガイドを伴った西大台ツアーチが6件示されているが、この「ガイド」とはどのようなものか。「ガイド」と言っても、ツアーチの添乗員から専門的知識を持ったガイドまで多岐にわたる。
- ⇒ [事務局] 今回の調査では、ガイドのレベルまでは把握できていないが、今後はガイドの質についても把握していきたい。なお、大台ヶ原で活動する「ガイド」に求められる資質については、別途設置したガイド制度等検討ワーキンググループにおける検討事項であり、また報告させて頂く。

(総合的な利用メニューの充実～特に利用の質の改善のための条件整備～)

- ・ 自然体験プログラムは継続していくことが重要であり、今後は、より充実したプログラム内容や効果的な情報提供・発信の方法について検討すべきである。
- ・ 自然体験プログラムを検討する際に、まず地域の方々（特に子供たち）を対象にした試行的なプログラムを実施し、アンケートにより参加者の意見や要望等を把握した上で、本格的なプログラムを検討するという方法も考えられるのではないか。
- ・ 普及啓発としては、平成20年3月から3ヶ月程度、樫原市昆虫館等において、大台ヶ原の昆虫をテーマとしたイベントを開催する予定である。
- ・ 大台ヶ原の魅力を伝えるガイドブックなどが書店に並ぶことは、効果的な普及啓発の方法のひとつとして期待できる。
- ・ ガイドブックについては、大台ヶ原の自然、文化、歴史、利用マナー等をひとつにまとめたものが望ましく、地域の方々と協力するとともに、先進事例なども参考にして、今後検討していく必要がある。
- ・ 自然再生推進計画に位置付けられているキャンプ指定地の設置についても、継続的に取り組みを進めるべきである。

[文責：近畿地方環境事務所]